

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	かしの木園		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 5日 ～ 2024年 12月 13日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	181	(回答者数) 156
○従業者評価実施期間	2024年 11月 5日 ～ 2024年 12月 13日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 21
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 22日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	橿原市役所内での関係部署との連携が図り易い施設である。	・発達相談や健診事業に携わっている心理相談員との連携。 ・幼児療育教室（検診後のフォロー教室）との連携。 ・特別支援教育係との卒園児に関する連携。 ・学校教育課の指導主事による教育支援相談のガイダンスの機会がある。 ・こども家庭課、障がい福祉課等と必要に応じた連携。	・こども家庭課、障がい福祉課、学校教育課等と更なる密な連携を図り、利用児への包括的な支援を充実させていく。 ・他の児童発達支援事業所・放課後等デイサービスへの連携に取り組んでいく。 ・子ども総合支援センター内での心理相談員との連携、特別支援教育係との連携を引き続き行っていく。
2	様々な専門職が務めており、多角的な観点でこどもをみて支援することができる。	・ニーズのあるこどもについては療育担当者以外の専門職がこどものアセスメントをしたり、保護者の相談に乗ったりしている。 ・定期的にカンファレンスを実施し、知識の共有や実践技術の向上に努めている。 ・各担当者の臨床上の悩みをチームで共有し、解決するよう努めている。 ・実習生やボランティアを受け入れる機会を通じて、学術的な機関とつながっている。 ・奈良県立医科大学附属病院と連携した相談支援体制があり、医師・看護学科教授による相談を利用することができる。 ・外部の音楽療法士による音楽療法を、月に1回実施している。	・内部・外部研修の拡充。 ・多職種によるこどもへのアセスメントや保護者相談の充実を図る。 ・各専門職が長く勤務できるよう、体制作りに努める。
3	橿原市内の公立校園との連携が図りやすい施設である。	・発達相談について所属園の先生と共有し、ケア会議を実施している。 ・年度当初にこどもが入園・所する幼稚園・保育所への引継ぎを実施している。 ・5歳児については、就学先の小学校からの参観やケア会議を実施している。 ・ニーズのあるケースに対しての所属園への参観・連携をしている。 ・所属園への参観やケア会議を実施できたケースもあった。 ・参観・ケア会議について公立校園への情報発信をしている。	・こどものニーズに応じたタイミングでの所属園への訪問を実施していく。 ・年度の早い段階での所属園への訪問を実施し、こどもの状態像の把握に努める。 ・小学校入学後の参観・ケア会議を試みる。 ・全通園児の就学先との連携。 ・私立園との連携の充実させる必要がある。 ・参観・ケア会議についての公立校園への情報発信をさらに充実させていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信において、SNSなどを活用できていない。	・公的機関としての制約がある。	・公的機関としての発信方法など検討していく。 ・コドモンの利用について検討していく。
2	きょうだい支援や保護者支援への取り組みが弱い。	・人員配置や安全管理上の都合で、行事にきょうだいを招待できていない。 ・ペアレントトレーニング等の保護者向けプログラムが実施できる職員体制がとれていない。	・きょうだいの行事参加のため、学生ボランティアなどの確保に努める。 ・療育に帯同するきょうだい児への配慮や対応の充実。 ・ペアトレを行える人材の育成。 ・保護者向け講演会を広くアピールしていく。 ・きょうだい児を含めた子育てに関する座談会や研修会の拡充。
3	物理的空間（部屋の数や広さの不足）	・現実的な予算上の困難がある。 ・利用人数が増加し、室内が狭く感じる。	・1つの部屋を、同時に使う人数を減らす工夫をしていく。 ・退園・卒園の仕組みを検討していく。